



# カフカ

マイナー文学のために〈新訳〉  
ドゥルーズ&ガタリ／宇野邦一訳

一般財団法人  
法政大学出版局

Hosei University Press  
〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-3  
3-2-3 Kudankita, Chiyoda-ku, Tokyo, 102-0073

Tel. 03-5214-5540 | Fax. 03-5214-5542



## 【内容紹介】

世紀の名著『アンチ・オイディップス』と『千のプラトー』の間に刊行された、すさまじい思考の生気が、新訳で蘇る！ ただ不条理を内向させるのではなく、あくまで闘うカフカ、書きながら、奇妙な戦いを続けたカフカ、悲劇ではなく喜劇、否定ではなく肯定、超越ではなく内在……。〈マイナー文学〉として、カフカ自身の書いたテクストを〈名作〉の囲いから引きずりだす。〈政治〉の定義を再考し、生々しく蠕動する〈過程〉そのものとして読み直す。

## 【訳者紹介】

第1章○内容と表現  
うなだれた頭、もたげた頭/写真、音

第2章○太りすぎのオイディップス  
二重の乗り越え——社会的三角形、動物になること

第3章○マイナー文学  
言葉/政治/集団

第4章○表現の構成要素  
愛の手紙と悪魔の契約/短編小説と動物になること/長編小説と機械状アレンジメント

第5章○内在性と欲望  
法、罪悪性等々に抗して/過程——隣接的なもの、連続的なもの、無制限なもの

第6章○系列の増殖  
権力の問題/欲望、切片、線

第7章○連結器  
女性と芸術家/芸術の反美学主義

第8章○プロック、系列、強度  
カフカによる建築の二つの状態/もろもろのプロック、それらの異なる形式と長編小説の構成/マニエリズム

第9章○アレンジメントとは何か  
言表と欲望、表現と内容

訳注  
訳者あとがき

## 【著訳者紹介】

ジル・ドゥルーズ (Gilles Deleuze)

1925年生まれ。哲学者。主な著書に、『経験論と主体性』ヒュームにおける人間的自然についての試論』『ベルクソニズム』『ニーチェと哲学』『カントの批判哲学』『ブルーストとシニユ』『マゾッホとサド』『スピノザと表現の問題』『意味の論理学』『差異と反復』『シネマ1・2』などがある。1995年死去。

フェリックス・ガタリ (Félix Guattari)

1930年生まれ。哲学者、精神分析家。主な著書に、『精神分析と横断性制度分析の試み』『分子革命 欲望社会のミクロ分析』『機械状無意識 スキゾ分析』『闘走機械』『分裂分析的地図作成法』『三つのエコロジー』『カオスモーズ』『リトルネロ』『人はなぜ記号に従属するのか 新たな世界の可能性を求めて』などがある。1992年死去。

宇野邦一 (ウノクニイチ)

1948年生まれ。立教大学名誉教授。主な著書に、『意味の果てへの旅』『予定不調和』『D 死とイメージ』『アルトー 思考と身体』『詩と権力のあいだ』『ドゥルーズ 流動の哲学』『ジャン・ジュネ 身振りと内在平面』『破局と渦の考察』『映像身体論』『ドゥルーズ 群れと結晶』『吉本隆明 煉獄の作法』『土方巽 衰弱体の思想』などがあり、訳書に、ドゥルーズ=ガタリ『アンチ・オイディップス』『千のプラトー』(共訳)、ドゥルーズ『フランシス・ベーコン 感覚の論理学』『シネマ2』(共訳)『フーコー』『襞 ライプニツとバロック』『ドゥルーズ書簡とその他のテクスト』(共訳)、ベケット『伴侶』『見かがい言いかがい』、ジュネ『判決』『薔薇の奇跡』、アルトー『神の裁きと訣別するため』(共訳)『タラウマラ』などがある。

カフカ〈新訳〉 ( ) 冊

四六判/218ページ/上製/定価(本体2,700円+税)  
ISBN978-4-558-01068-2 C1398 [2017年10月刊]

帖合・番線

ご芳名